

イスラーム世界に 生きる キリスト教

① 10:20～10:30

挨拶

竹内 修一（上智大学教授）

② 10:30～11:30

**シリア・キリスト教徒たちの見た
イスラーム勃興**

竹田 文彦（清泉女子大学教授）

③ 13:00～14:00

エジプトのコプト教徒

—ムスリムとの共存を目指して—

塩尻 和子（東京国際大学特命教授 / 筑波大学名誉教授）

④ 14:15～15:15

**キリスト教とイスラーム教の
対話に必要な理解**

フランシスコ・アント（エリザベト音楽大学専任講師）

⑤ 15:45～16:45

シンポジウム

司会：竹内 修一（上智大学教授）

2017年6月17日(土)

場 所：上智大学 中央図書館 9階 921会議室

聴講券：一般：1,000円 学生：800円

発売日：5月19(金)～

発売所：聖イグナチオ教会案内所（月曜休み）

Tel.03-3230-3509

または上智大学キリスト教文化研究所（土日祝休み）

（JR 中央総武線・地下鉄丸の内線・南北線 四ツ谷駅下車）

イスラーム世界に生きるキリスト教

イスラーム教は、ムハンマド（520頃～632）を創唱者として、アラビア半島に始まる。ユダヤ教、キリスト教と並んで、セム系の一神教の宗教を代表する。「イスラーム」とは、本来、神に自らを無条件に委ねることを意味する、と言われる。ユダヤ教におけるモーセ、キリスト教におけるイエス、そしてイスラーム教におけるムハンマド。イスラーム教において、ムハンマドは、最後の預言者とされる。彼は、ユダヤ教徒との接触はあったが、キリスト教徒との接触はほとんどなかった。

第一の講演は、「シリア・キリスト教徒たちの見たイスラーム勃興」。大天使ガブリエルがムハンマドに現われ、コーランの教えをもたらすまで、人々は、偶像崇拜と「無道」状態に生きていた。しかし、イスラーム教が始まる以前、すでに西アラビア地域には、ユダヤ教徒やオリエント・キリスト教徒、特に、シリア語を話すキリスト教徒の共同体が存在していた。イスラーム教の発展において、シリア・キリスト教徒の影響は、無視できない。そのことが、八世紀から一三世紀におけるシリア・キリスト教作家を通して語られる。

第二の講演は、「エジプトのコプト教会——ムスリムとの共存を目指して——」と題して、キリスト教・コプト教会とイスラーム教との関係が語られる。コプト教会（エジプト教会）の成立は、福音記者マルコにまで遡ることができる、と言われる。カルケドン公会議（451年）は、キリストには神性と人性の二つの本性がある、と決定した。しかし、エジプト教会は、キリスト単性説を唱える人々が多数を占め、分裂する。その後、コプト教会は、アラブ人に侵略され（639～41年）、イスラーム教徒の支配に服することとなった。

第三の講演は、「キリスト教とイスラーム教の対話に必要な理解」と題して、両宗教それぞれの特徴とともに、相互理解において必要なことについて言及される。両者は、本来、同じ伝統、すなわちアブラハムの信仰に由来しているために、共通点を見出すことはそれほど難しくはないだろう。しかしながら、現在の状況を眺めれば、いまだに双方の間には摩擦や誤解が生じていることに気づかされる。解決のために求められるのは何か、その可能性と具体的方法が提示される。